

新商品開発に向けて



▲各業界の代表者が出席し、行われた会議

農工商連携推進会議

市では、基幹産業である農林水産業と商工観光業が産業間で連携し、新商品などを開発して地域の活性化につなげようと8月21日、淡路ファームパークイングランドの丘で「農工商連携推進会議」を開催しました。

この会議には、市内の関係団体代表者35人が出席。国が本年7月に制定した「農工商等連携促進法」の概要と、それによる国の支援内容について、近畿農政局と近畿経済産業局の担当課長から説明を受

けました。この法律では、中小企業者と農林水産業者が共同で行う、新たな商品やサービス開発についての計画の認定を受けた場合に、事業資金の貸付や債務保証、税制等の支援が受けられるものです。

説明の後、先進事例の発表と出席者による意見交換が行われました。中田勝久市長は「新商品開発に向けた新たな試みや、市民の方々の活力を期待したい」と話しました。

農工商観光課 ☎ 37・3012

いつまでもお元気で

9月15日の敬老の日、満70歳以上の方々を招待して、市内4会場で敬老会を開催。当日は、約1700人が出席しました。

金婚夫婦表彰や最高齢者表彰が行われたほか、アトラクションとして、地元保育園児や小・中・高校生の演奏や演技、保存会による郷土芸能や和太鼓、だんじり唄、落語など、各会場で趣向を凝らした演目が披露されました。参

敬老会を市内各地で開催

加された方は、楽しい催しのなか、地域全体から健康と長寿を祝福されました。

また、9月3日には、中田市長が市内の100歳以上の方を訪問して長寿を祝いしました。対象の方は男性5人、女性13人の計18人で、その内の14人の方々の訪問。

中田市長が「いつまでもお元気で」と一人ひとりに声をかけ、祝い状と記念品を贈呈しました。



▲アトラクションとして行われた地元中学生による brass band 演奏(緑会場)

簡単な読み書き・計算で認知症を予防

脳の健康教室

南あわじ市では、65歳以上の高齢者を対象とした、認知症予防事業として、「脳の健康教室」を7月から始めました。

毎週1回、10月上旬まで緑市民センターで行われている教室には、19人が参加。学習サポーターの助言を受けながら、簡単な読み書きや計算を行う「脳のトレーニング」教材を使って、約40分間、おしゃべりもはさみながら楽しく学習していました。

この教材は、「学習療法」を取り入れたもので、大脳の前頭前野を活性化させることにより、その機能を回復させ、認知症を予防・改善するものです。参加者には、教室のない日も毎日10分程度、自宅トレーニングができるよう、教材を配布。毎日の積み重ねで、認知症予防につなげます。

11月からは、第2期として、三原保健センターで開催します。(18頁に募集記事)

議員定数4人減

9月11日に開かれた南あわじ市議会定例会で、議員提案により議員定数を現行より4人減らし、24人にする条例改定案が可決されました。

市の厳しい財政状況・議会の役割の重要性を踏まえ、議会では18年6月に議員定数等調査特別委員会を設置。議会当日には、同委員会から、市民懇談会や意見募集(ハガキや電子メール)などについての経過や結果の報告がありました。

西淡都市計画道路の説明会

県と市で計画を進めている西淡都市計画道路について、住民の皆様の意見をお聴きするため、次のとおり説明会を開催します。

▽日時 ①10月23日(木) 午後7時～②10月26日(日) 午後2時

▽場所 西淡公民館

▽内容 西淡都市計画道路(県道福良江井岩屋線、県道阿万福良湊線の各一部)

農都市計画課 ☎ 37・3016

淡路島全島一斉清掃

淡路島を美しく

11月2日(日)

午前8時～10時

道路沿線、や公会堂、公園、ゴミ集積場などを美しくします。家庭内のゴミは絶対出さないでください。



生活環境課 ☎ 43・5024

市税滞納者へ徴収強化

10月1日から

市税は行政サービスを行うための大切な財源です。しかし、市税を再三の催告にもかかわらず、いまだ納付されていない方がいます。納税の公平性から見て、このような滞納者を放置することはできません。

納税に誠意のない方は、「差押え」による滞納処分を行います。南あわじ市では、10月～12月を「徴収強化期間」と定め、厳しい姿勢で徴収に臨みます。

市税や介護保険料、後期高齢者医療保険料の納付が遅れている方、忘れていた方は、至急納めてください。納付方法については、収税課へご相談ください。

収税課 ☎ 43-5034



休日に証明書を交付

平日窓口に来庁できない方のために、10月1日から住民票の写しと印鑑登録証明書を休日に受け取れるサービスを始めます。

事前に電話予約が必要で、指定した休日(土曜・日曜・祝祭日)に総合窓口センターで受け取れます。▽予約 平日の午前8時30分から午後4時まで。

市民課 ☎ 43-5023)へ電話

▽利用できる人 各証明書に記載されている本人のみ予約・受け取りができます

▽受け取り場所 指定した総合窓口センター

▽持参品 印鑑、手数料、本人確認書類(運転免許証等)、印鑑登録証(印鑑登録証明書が必要な方のみ)

▽注意点 予約時の内容と受け取り時の内容が異なる場合は発行できません

ふれあい市長室 長寿を誇り、魅力を全面に!

南あわじ市長 中田勝久

長寿を祝い、敬老の寿ことほぎがございました。南あわじ市の高齢化率が26%を超え、70歳以上の方が1万1千人余りとなっております。

戦後63年が経過しました。戦前生まれの世代は、厳しい生活・経済環境の中、日本はもとより南あわじ市の基礎を削り上げてまいりました。

厳しい時代を生き抜き、玉葱やレタス、乳製品、鰹や鯛、淡路いぶし瓦、観光資源の開発など、数多くの「ふるさと資源」を誇れるものにされてこられました。

しかし現在、社会全体で多くの問題も抱えています。私は、これらの解決のために高齢者の能力や魅力をもっと全面に出していただき、地域に還元していただきたいと切望しております。今、地方に求められているものは、独自性の特化と人材という最大の資源の結集です。

高齢者が持っている技術・知恵・知識・熱心さ・辛抱強さは、若者には身につけにくく、教育や継承のなかで培われていきます。「年寄りの出る幕ではない」や「嫌われて損なんぼ」などと言われる方が少なくありませんが、日本の良さを知り、香り高き郷土を守り育ててきた長寿世代の活躍が激動の時代、今の南あわじ市に必要なのです。現在ご活躍いただいている以上に、仕事への取り組み姿勢や技術の伝承と併せて、子どもたちの見守りや昔遊び、手作りの伝承などで「おじいちゃんカッコイイ!」「おばあちゃんはやっぱ凄いな!」ともう一度言わせようようにしてください。

昔話を話したり、地道なことをする背中を見せていただき、次世代の記憶に残していただきたいと思えます。それが受け継ぐという伝統であり、街づくりであると信じております。是非とも「ふるさと」のためにもう一花咲かせていただきますようお願いいたします。いつまでもお元気に!!